

ごあいさつ



日本赤十字社医学会
理事長 富田 博樹
(日本赤十字社医療事業推進本部長)

本医学会は昭和39年に発足してから今年で53回目の総会を迎えることができました。これもひとえに会員の皆様方のご支援ご協力のおかげであり、心から御礼申し上げます。

本総会は、日本赤十字社に勤務する全ての職員が参加するもので、赤十字事業に関する知識と技術の向上を目的として、医療や血液事業の分野に限らず、幅広い分野からの発表の場となっております。今回の総会は東北ブロックが担当となり、総会会長を石巻赤十字病院の金田 巖院長が務められ、石巻赤十字病院が事務局を引き受けて下さいました。総会では877に上る様々な演題が発表される予定と聞いております。会員の皆様にとって、本総会が施設や職種の垣根を越えた活発な意見交換や情報交換を行っていただける場となるべく、金田 巖総会会長をはじめ石巻赤十字病院の職員の皆様が、プログラムを整えて下さいました。

本年度の総会では金田総会会長が最も力を入れてこられた「地域医療の「共創」～赤十字と地域が目指す医療のかたち～」というメインテーマが掲げられており、参加者の皆様のご自身の働く地域で地域医療を支えるために何をすべきかを再確認していただける機会となることを期待しています。

まず、特別講演は地元宮城に所縁のある方として、石巻市出身の自然写真家高砂淳二氏による「夜の虹との出会い」と栗原市出身の株式会社ヴィジョナリージャパン代表鎌田洋氏による「～ディズニーの神様からの贈り物～「ありがとうの数だけ幸せになれる」」が予定されています。また、私も特別講話として、「日本赤十字社の歴史と活動」と題し、博愛社誕生から日本赤十字社の発足に始まり、赤十字病院の設立の歴史と災害救護における日本赤十字社の存在意義及び公的医療機関としての赤十字病院の役割等についてお話させていただきます。

シンポジウムの一つ目は、「地域医療の『共創』」と題し、地域医療魚沼学校長布施克也氏、倉敷中央病院地域医療連携・広報部長十河浩史氏及び原町赤十字病院副院長内田信之氏により、安全で安心できる地域を作るために医療者と受療者はどう向き合うべきかについて意見を交わします。また、二つ目は、「災害医療」です。我が国の災害救護・災害医療は阪神淡路大震災をきっかけに大きな変革がなされ、東日本大震災を経て急速に発展整備されてきており、昨年の熊本地震の経験から、災害救護団体としての存続をかけた取り組みとして、赤十字の国内救護 東日本大震災・熊本地震から見えてきた本社・支部・施設の役割について討論されます。シンポジストには、国立病院機構災害医療セン

ター副災害医療部長近藤久禎氏、山形県立中央病院副院長森野一真氏、日本赤十字社医療センター国内・国際医療救援部長丸山嘉一氏、さいたま赤十字病院救急科副部長田口茂正氏を迎え、日本赤十字社救護・福祉部も加わります。

金田大会長のご厚意で、次の4つの本社企画が実現致しました。救護・福祉部による「日赤災害医療コーディネートの充実強化」、国際部による「国際救援活動フォーラム」、医療事業推進本部／医療の質向上委員会による「医療の質の評価・医療の改善活動報告」全国大会、及び医療事業推進本部／医療の質向上委員会／チーム医療の推進に関する検討部会による「やって良かったチーム医療」～経営の視点を踏まえて～の4つのセッションです。さらに、日赤病院グループの診療科別分科会の発表討論の場を学会プログラムに組み入れていただきました。この分科会は日赤病院グループ内の診療科間の連携を強める目的で私が事業局長時代から推奨している取り組みであり、第49回（和歌山）から始めてこれで5回目となりました。

本総会が、総会参加者にとり赤十字病院グループとしての取り組みや本社の取り組みを確認することができ、さらに発展させる場としての役割が加わることを、本部長・理事長として期待しているところです。

今回の総会を開催していただく石巻赤十字病院は、大正15年10月の開設以来、救急医療、災害医療をはじめとした診療体制等を充実させることにより災害拠点病院としての責務を果たすとともに宮城県北東部の救命救急医療及び高度医療を担ってこられました。

なかでも、平成23年の東日本大震災の際には、地域の医療が壊滅的な打撃を受けた中、平成18年に現住所に移転新築免震化していたことが幸いし、病院の施設・設備の被害は最小限にすんだこともあり、また、日頃から行政、消防、周辺の病院や開業医、加えて自衛隊等ともネットワークを整えていたこと、さらに全国から駆けつけた赤十字病院を初めとした支援の医療チームを的確にコーディネートすることにより、病院職員も被災者であるにも拘らず災害拠点病院としての機能を遺憾なく発揮し、地域の医療を維持されたことに心から敬服しております。そして赤十字内のみならず、全国から賞賛されたことは、記憶にまだ新しく、さらに、医療のみならず、崩壊した行政の肩代わりを引き受け、被災地域の保健行政を救護班を中心にコーディネートした実績は、大規模災害対応として、時代を画するものでした。

その後も東日本大震災から得た災害医療のノウハウをさらに発展させながら次世代に継承するとともに、より質の高い医療を地域の方々に提供し続けておられ、その一環としてJCIを受審され、認定されたことは、石巻赤十字病院の進化の大きな軌跡として記されることと思います。

最後になりますが、今回の総会の開催にあたり、総会会長である石巻赤十字病院の金田巖院長をはじめ、関係者の皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。会員の皆様には、今後とも本医学会、そして赤十字グループのさらなる発展のため、一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。